



東京学芸大学附属高等学校

第 15 回 公開教育研究大会のご案内

皆様方には、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
さて、本校では、第 15 回公開教育研究大会を以下のとおり開催いたします。是非、多くの教育関係者の皆様にご参加いただき、ご意見、ご助言を賜りたく、ご案内申し上げます。

1. 主題

コンピテンシー・ベースのカリキュラム開発 - 「教科の本質」に根ざした授業実践とその評価-

現在、次期学習指導要領の改訂に向けて、様々な議論が成されています。特に資質・能力の育成という観点からは、高大接続改革も巻き込みながら、教育界だけでなく、多くの注目を集めています。「アクティブ・ラーニング」や「カリキュラム・マネジメント」などの語は教育改革の象徴として、マスコミなどでもよく取り上げられているのを目にします。

さて、本校では「本物教育」というテーマのもと、旧来より「教科の本質」に根ざした教育を実践して参りました。加えて、昨年度の第 14 回大会では、ルーブリックを用いて、資質・能力の変容を評価する授業を提案致しました。それを受けて、今大会では、資質・能力の育成の観点から学校全体のカリキュラムを再構築していくことにしました。具体的には、カリキュラム・マネジメントの第一歩として、5 つの資質・能力を重点課題として設定し、それらの育成を実現するための教科ごとのカリキュラムを構築しました。今後、それぞれの教科のカリキュラムをベースに学校全体のカリキュラム・マネジメントが成され、より効果的な本校のカリキュラムの構築を目指していきます。

2. 日時・内容

平成 28 年 6 月 25 日 (土)

9:00 9:30~9:50 10:00 ~ 10:50 11:05 ~ 11:55 12:45 ~ 14:15 14:30 ~ 16:00

受付	全体会	休憩	公開授業 I	休憩	公開授業 II	昼休み	研究協議会	休憩	講演会
----	-----	----	--------	----	---------	-----	-------	----	-----

公開授業 I

教科	科目	授業者	授業タイトル	授業概要
地理歴史	世界史 A	小太刀 知佐	国民国家の現在・過去・未来 ～19 世紀のドイツ統一～ (現代社会との連携授業)	19 世紀のヨーロッパで国民国家が成立していく過程を学ぼう で、国家統合が成されたドイツの事例を取り上げる。国民国家 という概念が揺らぐ現在のヨーロッパを見つめ直すという狙い のもと、現代社会との連携を試みる。
数学	数学 II	菅原 幹雄	課題をみいだす力を育成する 授業実践 (図形と方程式)	2 つの円の交点を通る直線の方程式は、その 2 つの円の方程式の 差を求めることで得られる。しかし、2 つの円の交点がない場合 でも、直線の方程式が得られる。この直線の満たす性質を、ICT 機器を活用して考察する。
理科	生物基礎 演習	内山 正登 大谷 晋	遺伝リテラシー (生物と数学の連携授業)	生命科学技術の発達にともなって、様々な社会問題が話題にな っている。本授業では、近年話題となっている非侵襲的出生前 遺伝学的検査 (NIPT) を題材として、遺伝子検査におけるデータ をどのように解釈するかを議論する授業を行う。
保健体育	体育	瀧澤 政彦	柔道 ～投げ技 (ひざ車) を自ら学 ぶ～	「ひざ車」という投げ技を題材に授業を展開していくが、「こう やったら効率よく投げられる」という教師主導の授業ではなく、 「どうしたら効率よい投げ技になるのか」という生徒自身が試 行錯誤しつつ教師側の支援の元、技の習得を目指していく。

公開授業 II

教科	科目	授業者	授業タイトル	授業概要
国語	古典 B	藤 千恵	「漁父辞」 ～音読からのアプローチ～	屈原と漁父、それぞれの立場に立って音読していくことで、「濁」 と「清」にこめられた屈原の思いと漁父の真意を体感していく。 その個々の読みを、グループ (5~6 人ずつ) でいかに共有し発 現していくかを探る。
公民	現代社会	山北 俊太郎	国民国家の現在・過去・未来 ～ドイツと EU～ (世界史 A との連携授業)	民族・言語・宗教などに根ざすナショナル・アイデンティティ は、現代ドイツではほとんど存在しないにも関わらず、難民問 題に端を発し、ナショナリズムの問題が再び EU を取り巻いてい る。それらを手がかりにして、現代社会の諸問題を考察する。

数学	数学 A	吉岡 雄一	課題をみいだす力を育成する授業実践（図形の性質）	「方べきの定理」は、定点と円に対して不変量（方べきの値）が決まることを示している。方べきの値を題材とし、数学的な課題をみいだし、解決する力を育成する授業を提案する予定である。
芸術	工芸 II	神田 春菜	アジアの伝統文様を生かした型染手ぬぐいの制作	アジアの工芸を鑑賞し表現の工夫等について考え、デザインを発想・構想し型染技法で手ぬぐいを制作する。本授業では、互いのデザインを批評し合い、表現の多様性について理解を深め、デザインを見直していきます。
	書道 II	荒井 一浩	篆刻 姓名印を刻ろう	8分の白文印を制作する8回目の授業となる予定である。生徒の進行状況にもよるが、運刀の指導が想定される。書と篆刻の関係を意識させながら、刀意の生きた運刀を実現する為に工夫した授業を展開したい。
外国語	コミュニケーション英語 I	久野 あゆ美	Food Bank	読んで理解して終わり、発表して終わり、にならず、筆者と読者、話し手と聞き手の間のインタラクションを促すためには、日々の授業でどのような工夫ができるかを考える。

研究協議会

教科	研究テーマ	提案者	助言講師	所属
国語	音読の協働によって理解を深め合う	藤 千恵	塚田 勝郎	文教大学 文学部 非常勤講師
地理歴史 公民	現代社会の問題に地歴公民科は授業でどう向き合えるのか？	小太刀 知佐 山北 俊太郎	藤野 敦	文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官
数学	課題をみいだす力を育成する授業実践	数学科	沖山 義光	元中央大学 理工学部 特任教授
理科	理科における資質・能力の育成 ～遺伝リテラシーを事例に～	理科	高島 響子	東京大学 医科学研究所 特任研究員
保健体育	体育におけるアクティブラーニングについて考える ～武道における実践の検証及び他領域についての課題～	瀧澤 政彦	松田恵示	東京学芸大学 芸術・スポーツ 科学系 保健体育教室 教授
芸術（工芸）	「A 表現」と「B 鑑賞」相互の関連の中で 思考力・判断力・表現力等が育む指導方法の 工夫について	神田 春菜	古瀬 政弘	東京学芸大学 芸術・スポーツ 科学系美術分野 教授
芸術（書道）	育成すべき資質・能力を明確にした書道授業	荒井 一浩	加藤泰弘	文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官
外国語	「課題を発見する力」、「発信する力」を 伸長する日々の授業実践	久野 あゆ美	白倉 美里	東京学芸大学 人文社会科学系 英語科教育分野 講師

講演会

テーマ	「資質・能力」を育成するカリキュラム設計 - パフォーマンス評価の考え方と進め方 -
講師	西岡 加名恵先生（京都大学大学院教育学研究科 准教授）
<p>次期学習指導要領の改訂で目指されている資質・能力の育成。「パフォーマンス課題」や「ルーブリック」などをキーワードにして、資質・能力を育成する授業やカリキュラムのつくり方を分かりやすく、お話し頂きます。</p>	

3. 場所

東京学芸大学附属高等学校 〒154-0002 東京都世田谷区下馬 4-1-5

4. 参加費

無料（資料により実費をいただく場合もあります。）なお、お弁当を注文される方は、当日、1000 円を申し受けます。

5. 参加申込

参加ご希望の方は本校ホームページ（<http://www.gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp>）、または Fax にてお申し込みください。なお、お弁当の申し込みは 6 月 20 日（月）までをお願いします。

6. その他

詳細は本校 HP（<http://www.gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp>）に順次公開致します。

問い合わせは、下記までお願い致します。

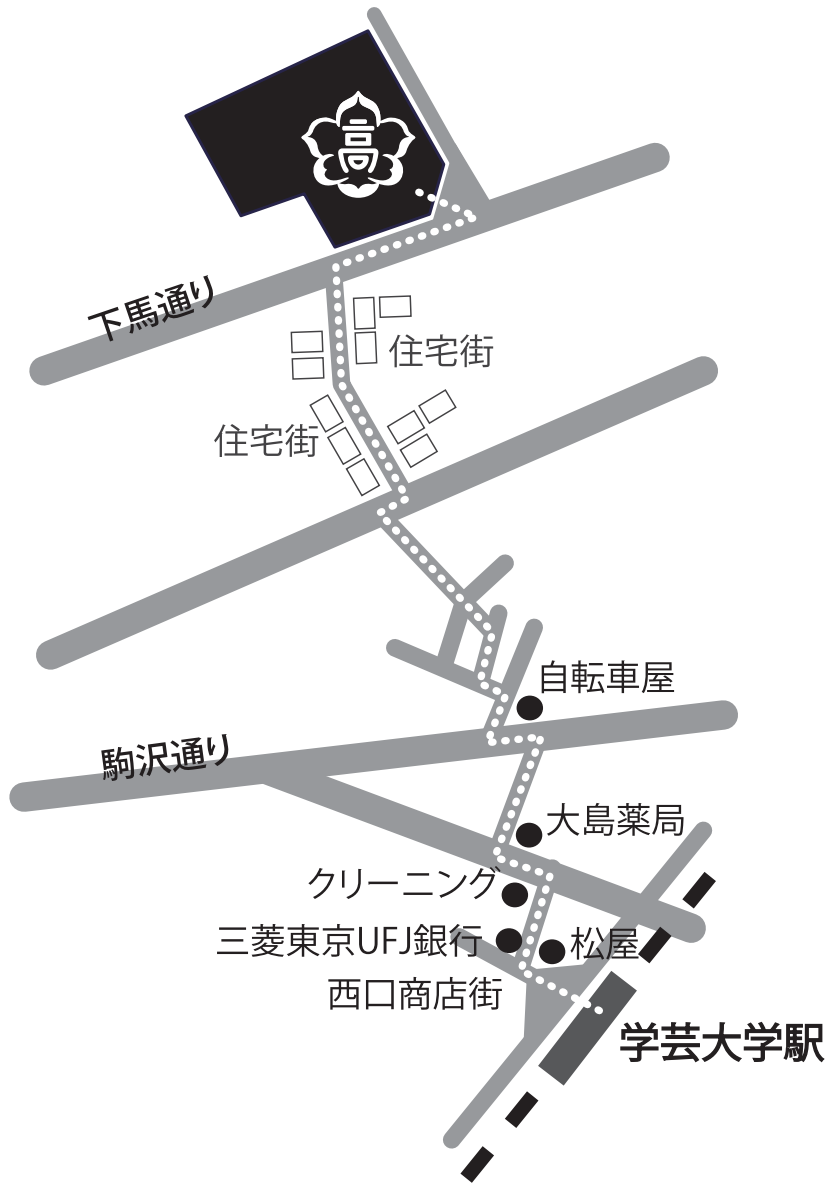
東京学芸大学附属高等学校 〒154-0002 東京都世田谷区下馬 4-1-5

TEL：03-3421-5151(代) FAX：03-3421-5152

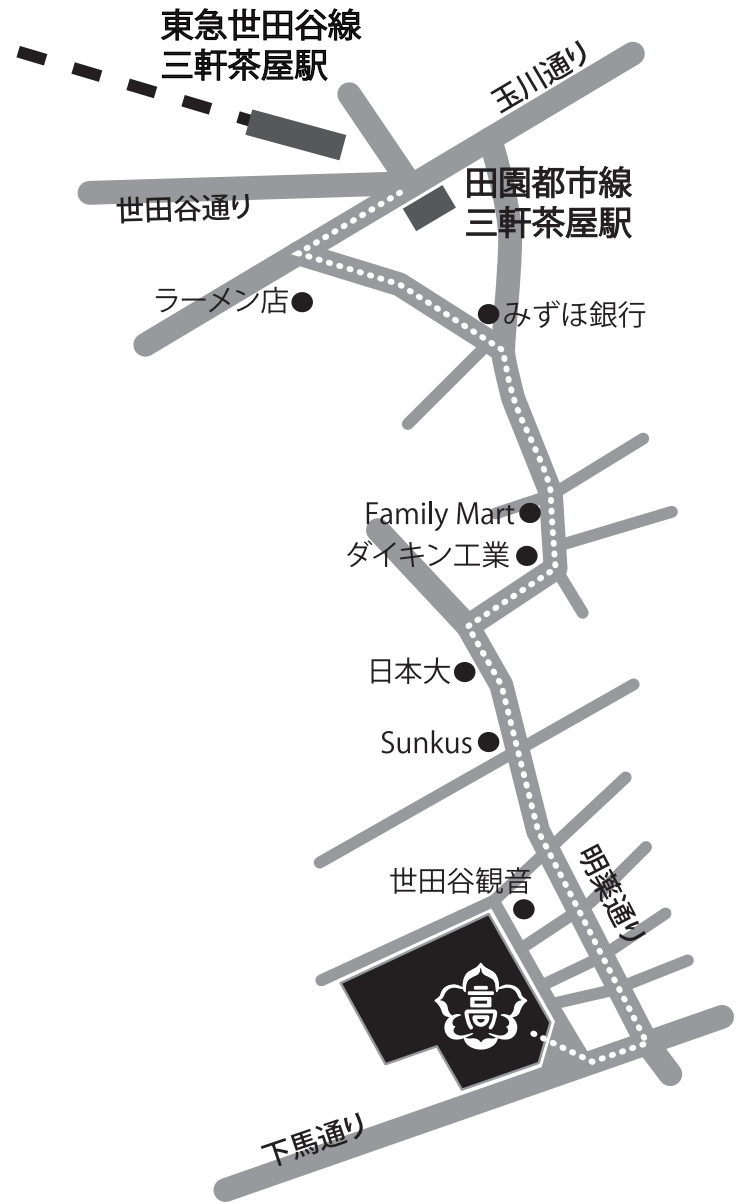
E-mail：kenkyubu@gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp （担当：研究部 齋藤 洋輔）

7. 東京学芸大学附属高等学校へのアクセス

電車 ・東急東横線「学芸大学」駅下車 徒歩 15 分



・東急田園都市線「三軒茶屋」駅下車 徒歩 20 分



バス（東急バス）

- ・【渋谷駅】南口 22 番のりば 「野沢龍雲寺循環」行き
23 番のりば 「東京医療センター」行き、または「多摩川駅」行き
 - ・【目黒駅】西口 2 番のりば 「三軒茶屋」行き
 - ・【三軒茶屋駅】「目黒駅」行き
- ※いずれも「学芸大学附属高校」下車 徒歩 1 分

第 15 回公開教育研究大会 参加申込書 (Fax 用) Fax : 03-3421-5152

フリガナ	
学校名、 所属名等	
所在地 住所等	〒 (—) 住所： TEL (— —) FAX (— —)
連絡先 E-mail	@

フリガナ ----- お名前	ご担当教科 (科目)	参加予定分科会	昼食申込 (1,000円)
		授業Ⅰ： ----- 授業Ⅱ： ----- 協議会：	有・無
		授業Ⅰ： ----- 授業Ⅱ： ----- 協議会：	有・無
		授業Ⅰ： ----- 授業Ⅱ： ----- 協議会：	有・無
		授業Ⅰ： ----- 授業Ⅱ： ----- 協議会：	有・無

※6月10日(金)までに、ホームページまたはFaxよりお申し込みください。

東京学芸大学附属高等学校 研究部

〒154-0002 東京都世田谷区下馬 4-1-5 Tel : 03-3421-5151 Fax : 03-3421-5152

(お問い合わせ) E-mail : kenkyubu@gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp (研究部) まで